

農林水産大臣賞（日本政策金融公庫農林水産事業本部近畿地区統轄賞）

株式会社 五斗長営農（兵庫県淡路市）



五斗長垣内遺跡



たまねぎ定植機による植付

（概 要）

（１）むらづくりの動機・背景

ほとんどの農地が棚田等の不整形な未整備田という状況で、担い手の減少と高齢化による耕作放棄地の増加が地区の課題として懸念されていた中、平成14年には中山間地域等直接支払制度の集落協定を締結、平成15年度には農村ボランティアの募集を行い、都市住民との交流を開始した。

そのような折、平成16年に台風災害を受け、ほとんどの農地が耕作不能な状態となり、このことが地域農業を見直す大きな転機となった。

地域は、単なる復旧ではなく、ほ場整備を行うことを選択し、農業経営については一集落一農場を目指し平成21年に「株式会社 五斗長営農」を設立するに至った。

ほ場整備が始まると、弥生時代後期の国内最大規模の鉄器製造群落遺跡である五斗長垣内遺跡が発掘され、この地で暮らした祖先への敬意の気持ちを込めて保存することとなり、集落民が一丸となって地域づくりに携わることになった。

（２）むらづくりの内容

五斗長集落は戸数50戸の小さな集落であるため、「株式会社 五斗長営農」に集落農家のほとんどが参加している。

また、「五斗長まちづくり協議会」は集落の全員を対象としており役員構成は町内会、老人会、農会、水利組合など各種団体の役員からなっている。

「株式会社 五斗長営農」では、営農面だけではなく、加工品の開発・製造、導入作物の研究、販路拡大の調整を行っている。

また、都市農村交流活動にも積極的で様々なイベントを通して、地域農産物をPRするなど地域のファンづくりを進めている。この際、地域住民自らが五斗長垣内遺跡などの地域文化に誇りを持ち、楽しみながら企画実施していることが継続していく原動力となっている。